

## 土木学会におけるダイバーシティ&amp;インクルージョンの推進

(株) 建設技術研究所 正会員 ○米山賢

## 1. はじめに

今日、「働き方改革」「女性活躍推進」といった言葉は耳目に触れる日がないほど社会で広く用いられており、土木界でも一般的に使われるようになってきている。

社会全般に比べ遅れてスタートした土木界におけるダイバーシティ(=多様性)の推進は、男女共同参画に始まり、最近では生産性向上や担い手の確保といったニーズから、さまざまな多様性への広がりが見られるようになってきた。

本稿は2015年に土木学会が策定した「ダイバーシティ&インクルージョン行動宣言」(以下、「D&I 行動宣言」という)に基づくダイバーシティ推進に向け、その活動を中心的に行ってきたダイバーシティ推進委員会の最新の取り組みについて、主なものを紹介する。

## 2. 土木学会の現状

土木界の現状の一つとして学会の会員数をみると、正会員・学生会員合わせた個人会員の総数 38,263 名(2019年3月末時点)のうち、女性会員数は5.4%にとどまっている。一方経年的には、女性入職者の増加に支えられて1998年以降20年あまりで女性正会員数は4倍超にまで増加し、微減の男性正会員数とはまったく異なる傾向を示している。

このように、土木界は性別の偏りをはじめ、必ずしも多様性に富んでいるとはいえない状況にあるものの、顕在化している人手不足や土木技術者の活躍の場拡大など、多様性を強みにした生産性向上や担い手確保の実現に向けて大きな可能性を有しているといえる。

## 3. 活動の概要と成果

## (1) 「D&amp;I ウィーク 2019」の開催

土木界におけるダイバーシティの推進をさまざまな機会を通じて継続的に発信していくという認識の下、「D&I 行動宣言」の一層の周知などを目的として、「D&I ウィーク 2019」を2019年11月11日(月)～15日(金)の間、東京・四谷の土木会館で開催した。ウィークは前年度に引き続いて実施したものであり、

D&I ポスター展、D&I カフェを開催した。

D&I ポスター展は土木会館1階廊下壁面を利用し、各職場等のD&Iに関する取り組みを表現したものを公募し、10月11日～11月1日の募集期間で18団体、32枚の応募があった。また委員会ではD&Iに関するランキングや表彰の現状を示したポスターを制作し、あわせて展示を行った(写真-1)。



写真-1 ポスター展の様子

期間中、ポスター展に近い打合せスペースの一角を「D&I カフェ」として開設し、当委員会のメンバーが訪問者との情報交換等の場とした。カフェにおいては飲み物とダイバーシティに関する書籍を用意し、眼前のポスターに関する解説や質疑応答なども行った。

最終日となる15日には、土木学会・第107代会長の林康雄氏を迎えてD&Iの現状を紹介するとともに、さまざまな意見交換を行った(写真-2)。



写真-2 D&amp;I カフェの様子

Key Words : ダイバーシティ, インクルージョン, 生産性向上, 担い手確保, JSCE2020

〒103-8430 東京都中央区日本橋浜町3-21-1 03-3668-4226 yoneyama@ctie.co.jp

## (2) 坑内労働に関する公開討論会の開催

2006年の労働基準法改正により女性技術者の坑内労働規制は緩和されたが、女性技能者の就労は現在も禁止されたままである。しかしながら技術の進歩や安全性の向上、女性技能者の増加、人員不足、女性活躍の促進等の状況変化に鑑み、女性技能者の職域拡大と現場生産性向上を目指して、日本建設業連合会、日本トンネル専門工事業協会とともに3団体合同ワーキングを形成し、活動を行っている。

その活動の一つとして、2019年5月30日(木)、土木会館において、合同ワーキングの主催により、「女性技能者の坑内労働規制緩和に関する公開討論会」を開催した。公開討論会の形式としたのは活動の経緯や現状を合同ワーキングの中間報告として知らしめる傍ら、労使双方の認識を共有することで、規制緩和に向けた気運を高めるためであり、活発な質疑応答や意見交換により目的は概ね達成されたと考えている(写真-3)。



写真-3 公開討論会の様子

公開討論会実施に先立ち、女性技術者・技能者、工事部署の代表者等を対象にウェブアンケート形式による意識調査を行い、前回法改正後(2009年)に行った同様の調査結果と比較した資料を討論会に提示した(図-1)。

### 女性技術者の坑内労働への配置について



図-1 アンケート調査結果(抜粋)

## (3) JSCE2020 プロジェクトの推進

土木学会の2020年度からの新たな5か年計画である「JSCE2020-2024～地域・世代・価値をつなぎ、未来社会を創造する～(略称:JSCE2020)」における4つのプロジェクトの一つとして、「土木D&I2.0にむけた活動の場とツールをつくる」が位置づけられた。本プロジェクトは20～30年後に達成すべき目標である中期重点目標の「目標4」に該当する(表-1)。

表-1 JSCE2020 中期重点目標

○目標1 (安全・安心)	安全で安心して豊かな生活ができる持続性の高い国土再構成
○目標2 (国際)	我が国が有する質の高いインフラの海外展開と国際的諸課題の解決への主体的貢献
○目標3 (コミュニケーション)	専門的知見に基づく公正な立場での対話と情報蓄積・公開を促すしくみの整備と利活用
○目標4 (人材)	次世代の土木技術者の育成と多様な人材が活躍できる社会の実現

プロジェクトは、当委員会が他の委員会・組織と連携しながら進めるもので、これまで推進してきた土木学会のD&Iの成果と活動実態をふまえ、女性に限定しない対象の拡大と、取り組みの裾野の拡大をはかるためのアクティブなプラットフォームを構築する。また、それぞれの職場でD&Iの進捗状況、成果を意識化することで、土木界のD&I進展をはかるための土木界向けツールを作成することを目的としている。実施期間は2020～2022年度の3カ年を予定する。

## 4. おわりに

土木界におけるダイバーシティ推進は、これまで以上に学会内外との連携が重要であり、推進体制の多様性確保が次のステージである「土木D&I2.0」に向けた第一歩であると考えられる。

## 参考文献

- 1) 土木学会企画委員会&土木広報センター, 数字で見る土木学会(2019年6月時点の情報に基づく)  
<http://committees.jsce.or.jp/kikaku/jsce-at-a-glance>
- 2) 土木学会5か年計画(2020年4月1日時点)  
2017<http://committees.jsce.or.jp/JSCE20XX/>